

学習指導要領と第二言語習得の 理解に基づいた 小学校英語教育の心構え

MEIKAI-JOE プラス 第1回講座

小・中・高における外国語の目標

小学校 外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

高等学校 外国語

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「言語活動」とは

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。

授業の中心は言語活動

- コミュニカティブ・アプローチの影響。
- 教師の説明を通してではなく、子どもが自ら英語を使って習得。
- 教師は、ファシリテーター。
- ファシリテーターの役割：
 - ① コミュニケーションの目的・場面・状況の提供
 - ② 話題の提供
 - ③ 言語材料の提供

1 授業時間の展開の例

・コミュニケーションの
目的・状況・場面
・話題
・言語材料

・ SMALL TALK

- ・ 指導者とやり取り
- ・ ペアで伝え合う活動
- ・ 指導者とやり取り
- ・ ペアで伝え合う活動
- ・ 話した一文を，例を参考に書く活動

音声で十分に慣れ親しむ。
慣れ親しんだから、読む・書く

Q1:教師が授業で扱う英語の量と質について 教えてください。

- 教師ではなく、子どもの言語活動の時間を十分に確保する。
- 子どもが言語活動をするために必要なインプットを与える。
- 教師は、英語のモデルでなくてもよい。英語学習者のモデル。間違っているのもいいので、英語を使う見本を見せる。子どもとのやり取りを楽しむ。

Q2:教師がよくしてしまう誤りとは何ですか。

- 「正確さ」だけを追求しない。⇒相手に伝わることが大事。
- 1回では到底習得できず、時間がかかる。⇒「場面」などを換えながら、何度も同じ英語に出会わせて、使わせる。

Q3:高学年における文法的知識や語彙の扱い方について教えてください。

- 文法は指導項目に入っていない。
- 文法は教えるのではなく、気づかせる。
- 語彙も説明ではなく、実際に使用させる。
- 子どもが言いたい、使いたい語彙を教える。

Q4:小学校英語における聞くことと話すことの活動の バランスについて教えてください。

- 子どもたちにできるようにしてほしいゴール(CAN-DO)をまず確認する。
- ゴール(CAN-DO)を達成させるためにバックワードデザインで授業を展開する。
- 子どもがゴールを達成できるようになるまで、何度も聞かせたり使わせたりさせる。

Q5: 授業の中で、教師はどの程度の割合で英語と日本語を使えばよいですか。

- 授業は、子どもが英語を聞く貴重な機会。
- 教師の日本語の説明で子どもたちの英語コミュニケーション能力は上達しない。
- 英語はゆっくり、はっきり(明瞭に)話す。
- 子どもが分からないときにすぐに日本語を使うのではなく、繰り返したり、例を挙げてみる。⇒推測させることが大切。